

Title	Systematic analysis of the expression profiles of brain-specific genes (cDNA) by a high-density cDNA filter method
Author(s)	高橋, 信明
Citation	大阪大学, 1995, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/39067">https://hdl.handle.net/11094/39067</a>
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉</a> 大阪大学の博士論文について <a>〉</a> をご参照ください。

***Osaka University Knowledge Archive : OUKA***

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	たか はし のぶ あき 高 橋 信 明
博士の専攻分野の名称	博 士 (理 学)
学位記番号	第 1 1 7 3 7 号
学位授与年月日	平成 7 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当 理学研究科生物化学専攻
学位論文名	Systematic analysis of the expression profiles of brain-specific genes (cDNA) by a high-density cDNA filter method (高密度 cDNA フィルター法によるヒト脳特異的遺伝子 (cDNA) の発現様式の系統的解析)
論文審査委員	(主査) 教授 畠中 寛  (副査) 教授 吉川 和明 教授 小倉 明彦 東京大学医科学研究所教授 榎 佳之

#### 論 文 内 容 の 要 旨

脳では、約30,000種の遺伝子が発現していると言われているが、現在でもそのほとんどが未知である。脳の機能や構造を知るためには、脳で特異的、もしくは多く発現する遺伝子を系統的にリストアップし、特徴を調べることが重要であると考えた。そこで、多数の脳で発現する遺伝子 (cDNA) を集め、高密度にナイロンメンブラン上にスポットし、いろいろな組織や株細胞より抽出した mRNA を基に作成した cDNA プローブでハイブリダイゼーションを行い、放射活性を比較することにより、それぞれの遺伝子 (cDNA) の発現情報を集め、興味深いものについて解析を行うことにした。

ヒト大脳皮質 cDNA ライブラリーから68種の重複クローンを除外し、約8,300のクローンを得た。このクローンを基に、高密度 cDNA フィルターを作成し、解析を行った。ヒトの成人脳と肝臓もしくは腎臓、成人脳と胎児脳を比較し、成人脳、胎児脳で発現が高いクローンを約300選び、部分塩基配列を決定した。GenBank で既知の遺伝子との相同性を調べた結果、約100クローンが未知で、約200クローン (100種) が既知であった。これらの既知、未知、あわせて200種のクローンで再度、高密度 cDNA フィルターを作成し、さらに解析を行った。ヒト神経芽細胞由来の細胞株の LAN-5, SH-SY5Y, ヒト神経腫由来の細胞株 U251, ヒト全脳, 小脳, 大脳皮質, 腎臓, 肝臓におけるそれぞれのクローンの発現を調べた。この解析結果を基にして以下の基準でクローンを選択し解析を行った。(1) LAN-5, SH-SY5Y での発現が U251 と較べ高いもの (11クローン)。(2) ヒト全脳での発現が、ヒト腎臓, 肝臓に較べ高いもの (10クローン)。(3) U251 での発現が, LAN-5, SH-SY5Y と較べ高いもの (3クローン)。(4) 大脳皮質での発現が, 小脳に較べ高いもの (3クローン)。選択したクローンについては, RT-PCR により発現の有無を調べ, 特に特異性の高いものについてさらに解析することにした。(1), (2) で選んだクローンの中では, 特異性が高いクローンが7つあった。(3) で選んだ全てのクローンの中には, 非常に高い特異性を示すものはなかった。(4) で選んだもののうち, 1クローンは大脳皮質に高い特異性を示した。

選ばれた8クローンについて, cDNA の塩基配列を決定し, GenBank で既知の遺伝子との相同性を調べた。このうちの2つは, ラットの神経系で働く遺伝子 SCG10, RC3 の相同体で, その発現は, 高密度 cDNA フィルターでの解析結果と一致した。2つの未知クローンについては, 5' RACE 法により残る 5' 側の全てが得られたので塩基配列の決定を行い GenBank で既知の遺伝子との相同性を調べた。その結果, 1つはマウスの M6 遺伝子と相同性が見られた。残る1つは全く未知の遺伝子であった。この未知の遺伝子についてさらに詳細な解析を行った。

以上、高密度 cDNA フィルターを用いた解析により、未知の遺伝子の発現様式を簡単に知ることができることが解かった。このような解析を続けることにより、脳の機能について解明する手掛かりが得られると考えられる。

#### 論文審査の結果の要旨

本研究は、高密度 cDNA フィルターを用いて、ヒト脳特異的遺伝子の発現様式を系統的に解析したものであり、8,300のクローンを扱い、解析を行った結果、未知の主としてニューロンに発現する遺伝子を得ることに成功した。

以上のように、ヒト脳における遺伝子解析について、新しい知見を得ており、博士（理学）の学位論文として十分価値のあるものと認める。